

食とくらしの「今」が見えるWebマガジン

2025 JULY

7

aff

あふ

Agriculture Forestry Fisheries

特集

土地改良区

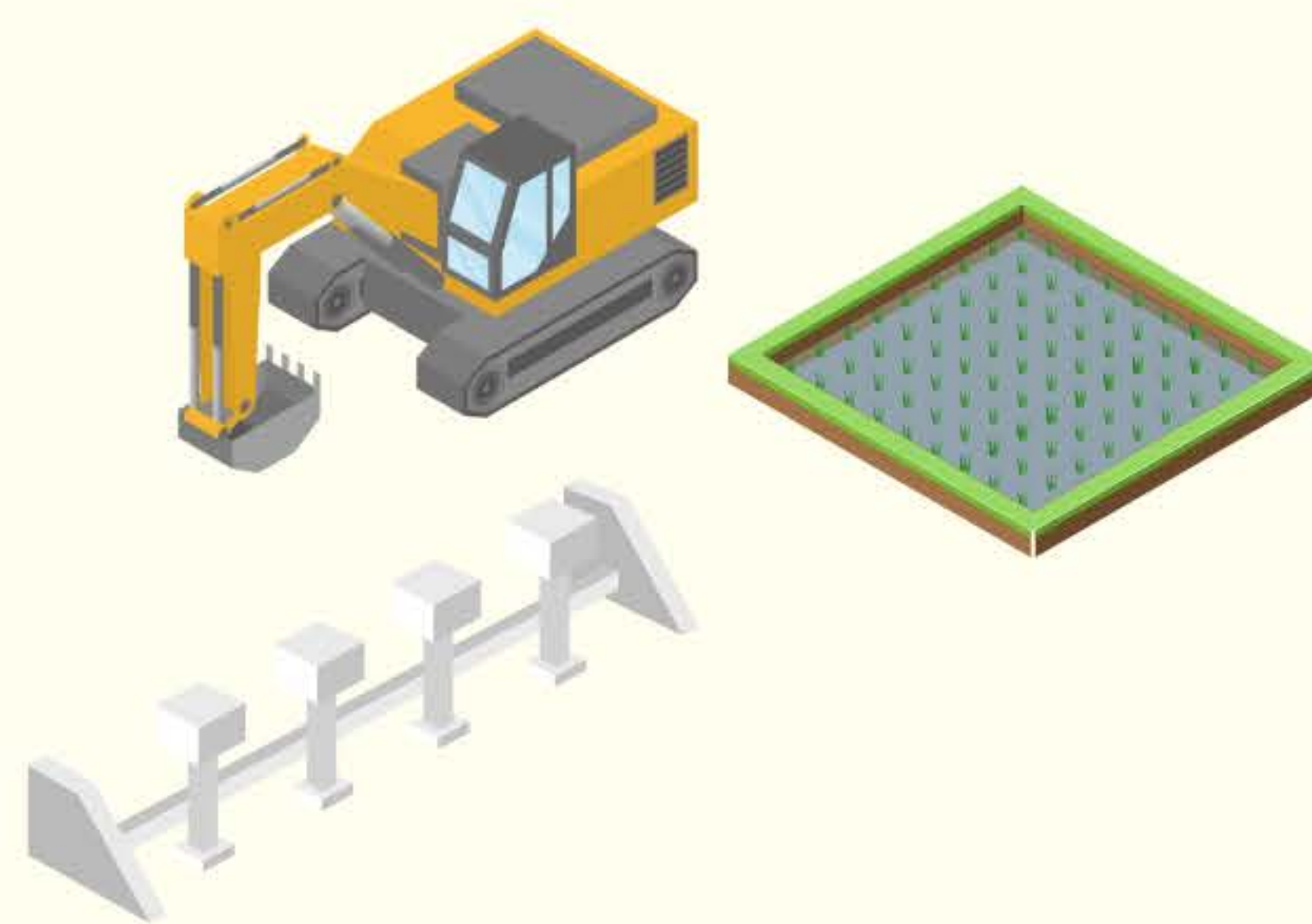
農林水産省

農業の発展に欠かせない

土地改良区



農業の基盤である農地に関する団体の一つに「土地改良区」があります。どんな団体でしょうか。成り立ちや事業の仕組みについて、イラストやデータを使ってわかりやすく解説します。



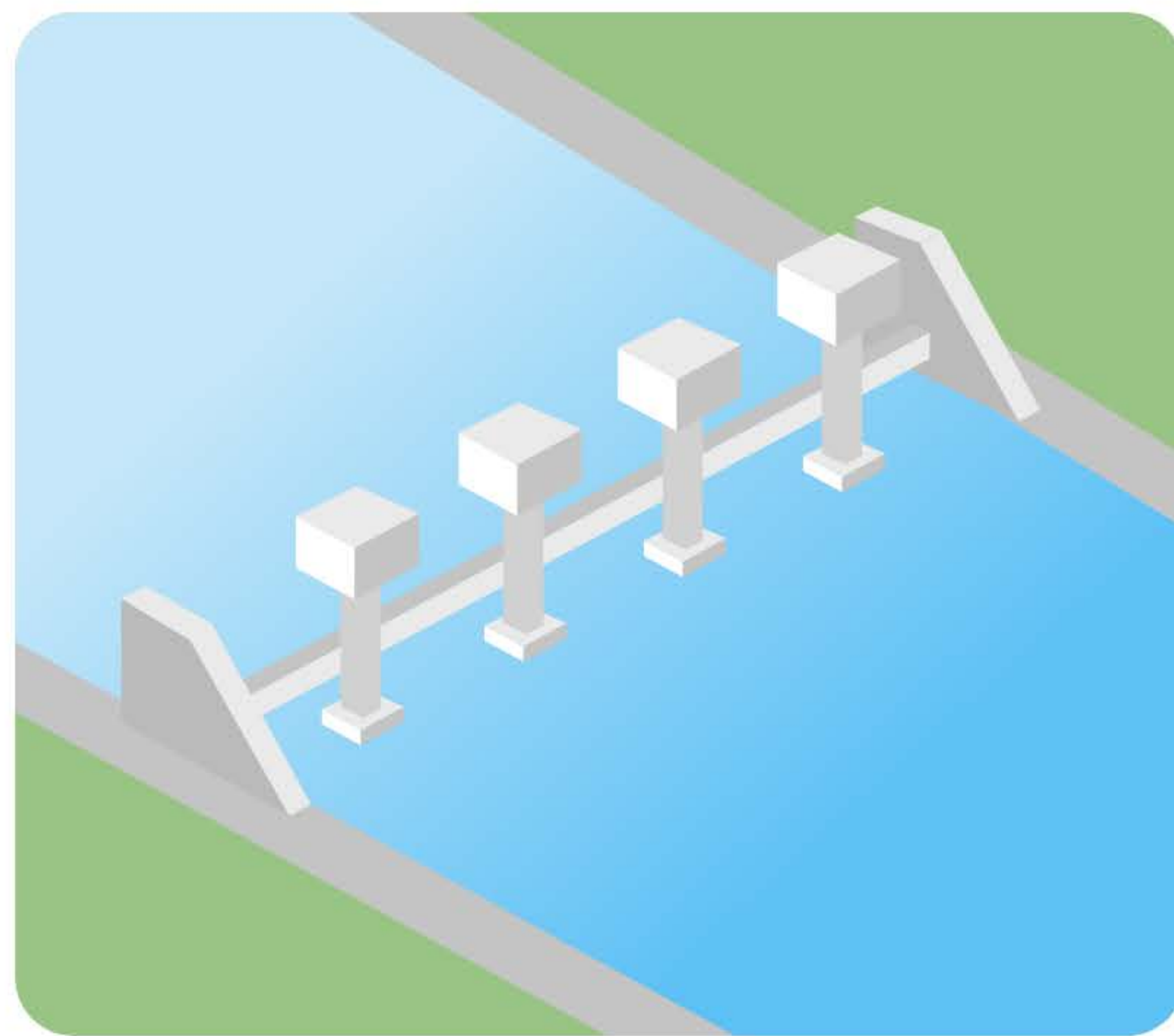
土地改良区とは何か？



土地改良とは農業の生産性を高めるために農地を改良、保全することです。土地改良区は地域の農業者等により設立される団体で、古くから農地に必要な水を供給する事業や農地を整備する事業を進めています。

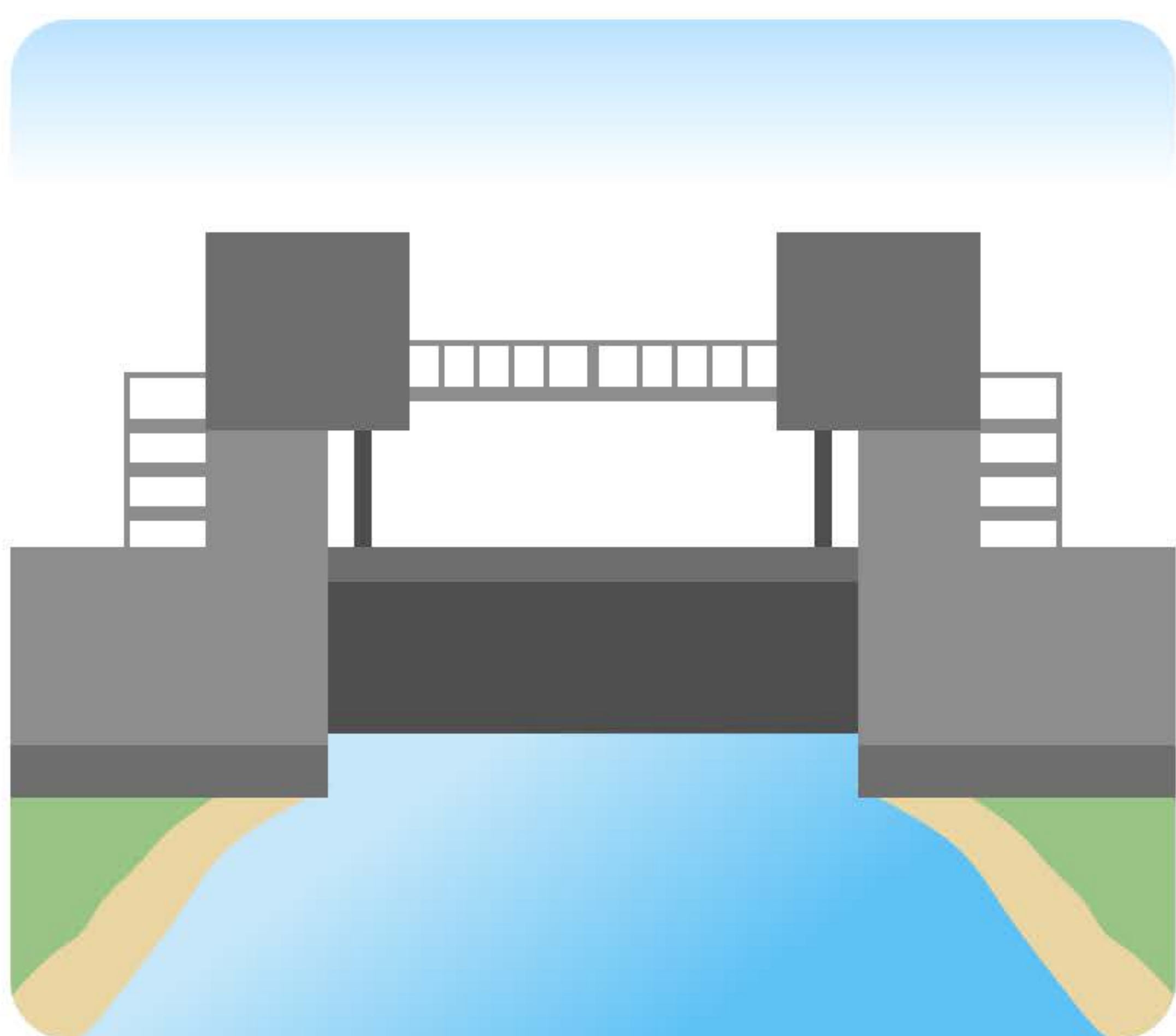
水を取る

多くの農地は必要な水を川などから水路を使って引いています。水を引くために必要なのが堰（せき）です。堰を造って水をせき止めると水位が上がり、水は取水口から水路へ流れるようになります。農業用水を取水するための堰を「頭首工（とうしゅこう）」と呼んでいます。



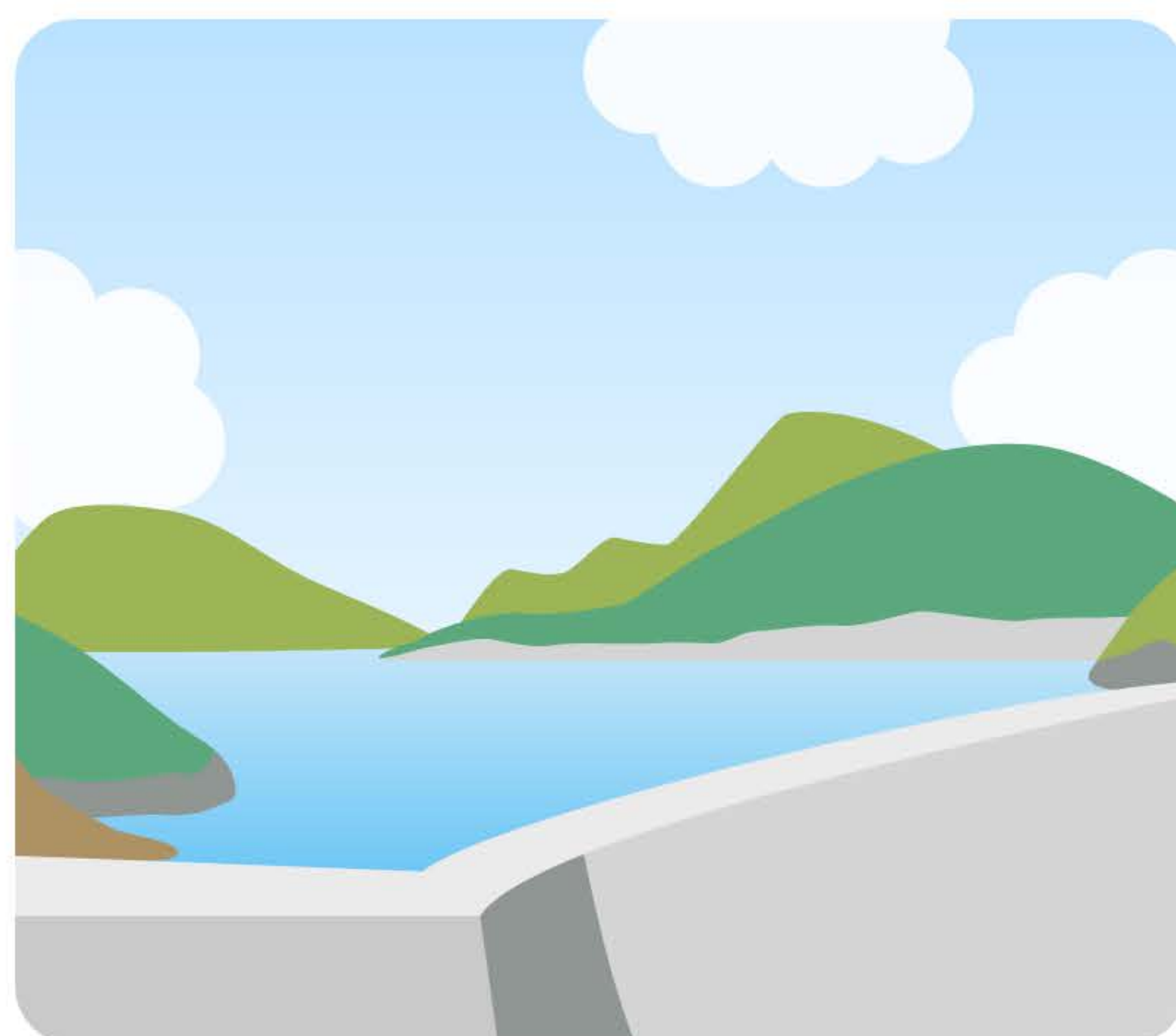
水を運ぶ

農地に水を運ぶためには水路が必要です。取水口などで取り入れた水を運ぶ水路を用水路と呼びます。そこから水路が枝分かれして各地区の農地へと水を運びます。山や丘を越えて水路を引くこともあり、水路の建設には多大な労力が必要です。



水を溜める

降水量が少なく近くに大きな河川がない地域では、農業用水を確保するために、ため池を造成しています。こうした農業用ため池から水路を使って水を農地に運びます。農業用ため池は全国に約15万カ所あり、瀬戸内地域など西日本に多く分布しています。



農地を整える

農業の生産性を高めるためには、農地の整備も重要です。ほ場（田んぼ）の形状を整え大区画化すれば、農作業を効率化することができます。また、ほ場の水を抜く排水路を整備することで大雨時の農作物の水害を防いだり、畑作への転換が可能になります。



農地を守る

農業を持続可能なものとするためには、農地や水利施設を守る必要があります。各地域で、こうした業務を担っているのが、土地改良区です。近年では、地域のコミュニティ創出や用水路での生態系保全、さらに農村環境の維持保全にも寄与しています。



数字



読み解く 土地改良区

全国に組織をもつ土地改良区は、組合員が300万人を超える大きな団体です。様々なデータを知ると、土地改良区がより身近な存在に感じられます。

組合員数

332万人

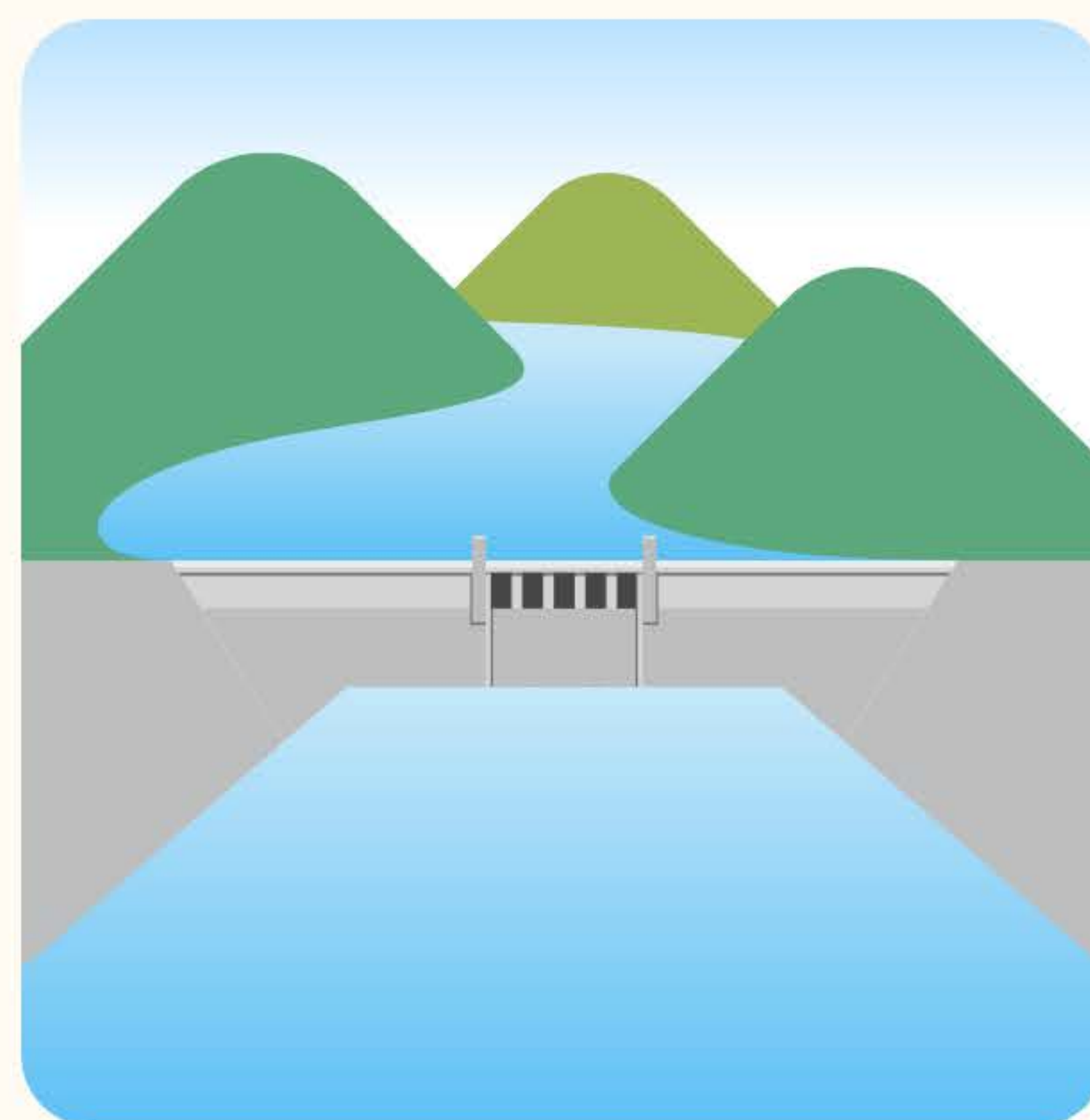


土地改良区内の農地の所有者、所有者から農地等を貸借している耕作者が組合員です。

地区数

4,043地区

全国には4,043の土地改良区があります。市町村数平均で2.3地区あり、地域に深く根づいています。



女性理事の数

1,136人



女性理事の登用が進んでいます。女性理事の割合を10%以上にすることが目標です。

土地改良区の歴史

75年



土地改良区は、1949年に制定された土地改良法に基づいて設立された法人です。

※2025年3月末時点、農林水産省データより作成

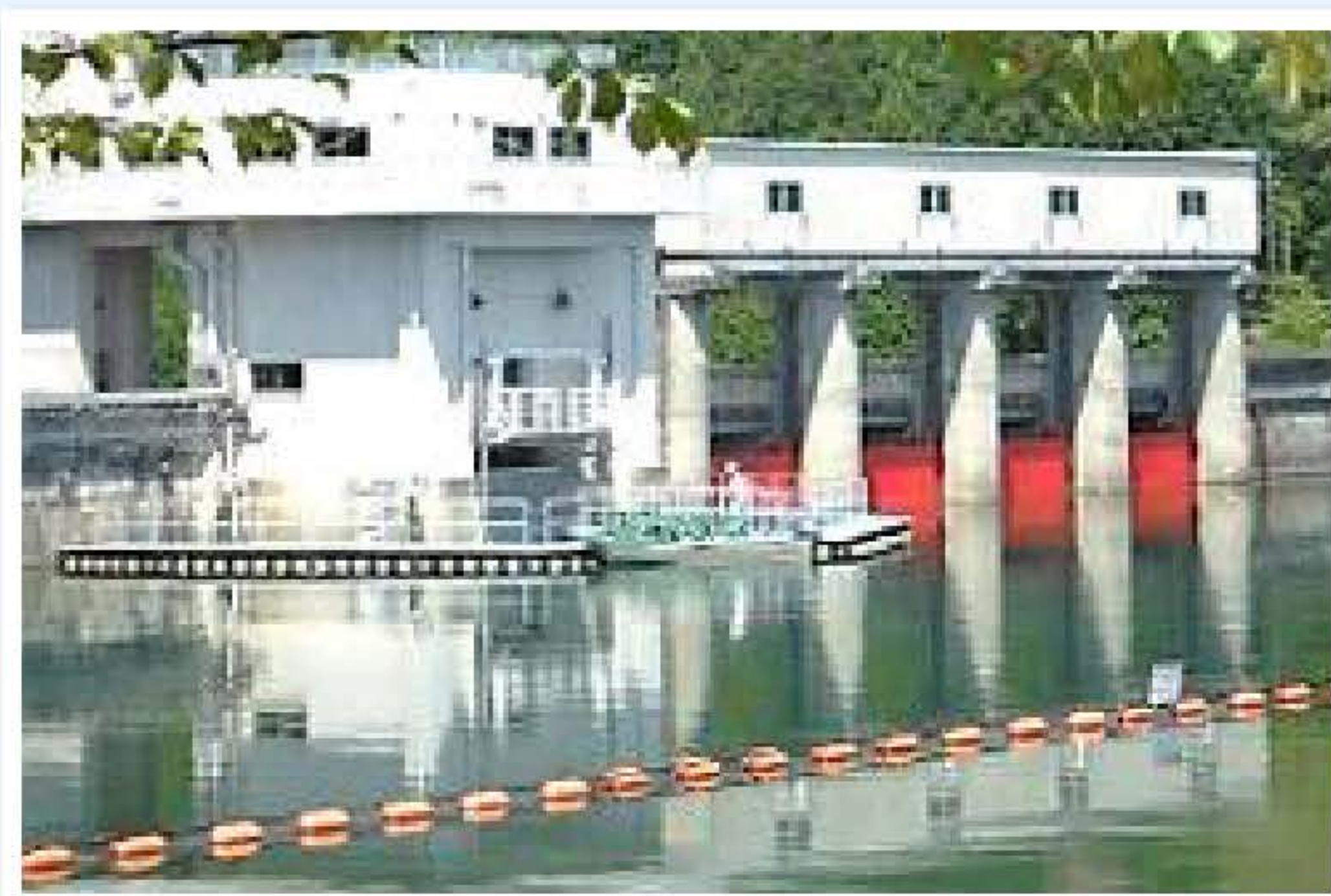


土地改良区の仕事



土地改良区では、農地へ安定的に水を供給するための事業や農地の区画整理など生産性を向上するための事業を行っています。これらは農業の基盤を支える上で欠かせない取り組みです。具体的な事例を紹介します。

☑ ダムの操作、点検



川などの水を溜めて用水路に供給する農業用ダムの操作と点検を行い、水位を管理します。

☑ 頭首工の操作、点検



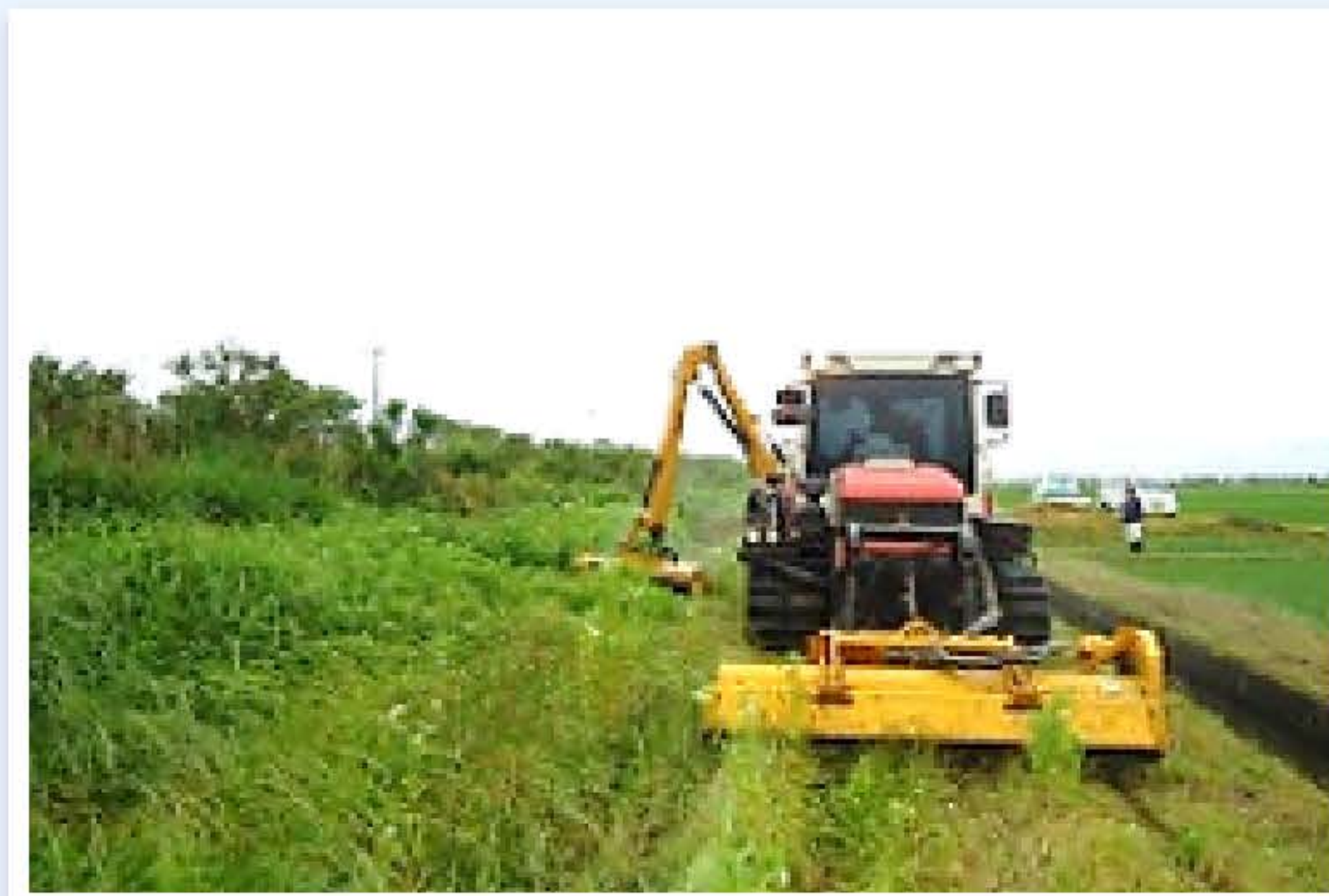
川などから農地に必要な水を取水するため、水路の入り口にある頭首工を操作、点検。

☑ 水路の整備補修



コンクリート等で造成した水路を整備補修することで、水の安定供給を実現しています。

☑ 水路敷地の除草



水路の点検、管理を適切に行えるよう、水路やその周辺の草刈りを定期的に行います。

✓ 水路しゅんせつ



水路の底に堆積した土砂やヘドロを取り除く作業で、通水能力の維持に役立っています。

✓ 農地の区画整理



生産性を高めるため、立地条件に即した農地の大区画化・汎用化を進めています。

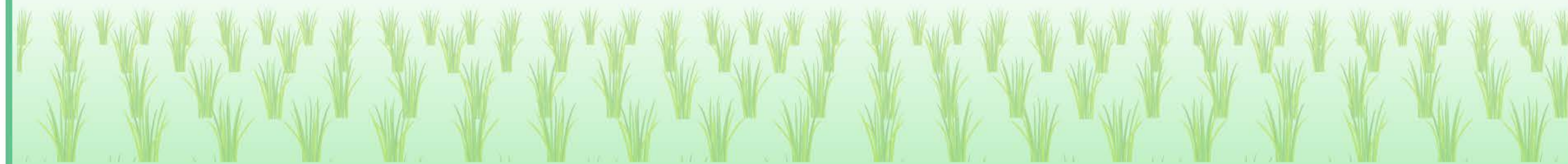


水土里（みどり）ネットとは？



水土里（みどり）ネットとは、全国の土地改良区と47都道府県にある土地改良事業団体連合会と全国土地改良事業団体連合会の愛称です。「水」は土地改良区が管理し農地に供給されている農業用水、「土」は農業用水によって潤う水田や畑、「里」は農村や農村環境を意味しています。そしてロゴマークは稲が育つ姿をイメージしています。水土里（みどり）ネットという愛称で親しまれ、土地改良区、土地改良事業団体連合会のネットワークにより、日本の元気な農業を支え、応援していくことを目指しています。

全国土地改良事業団体連合会 <https://www.inakajin.or.jp/>





今週のまとめ

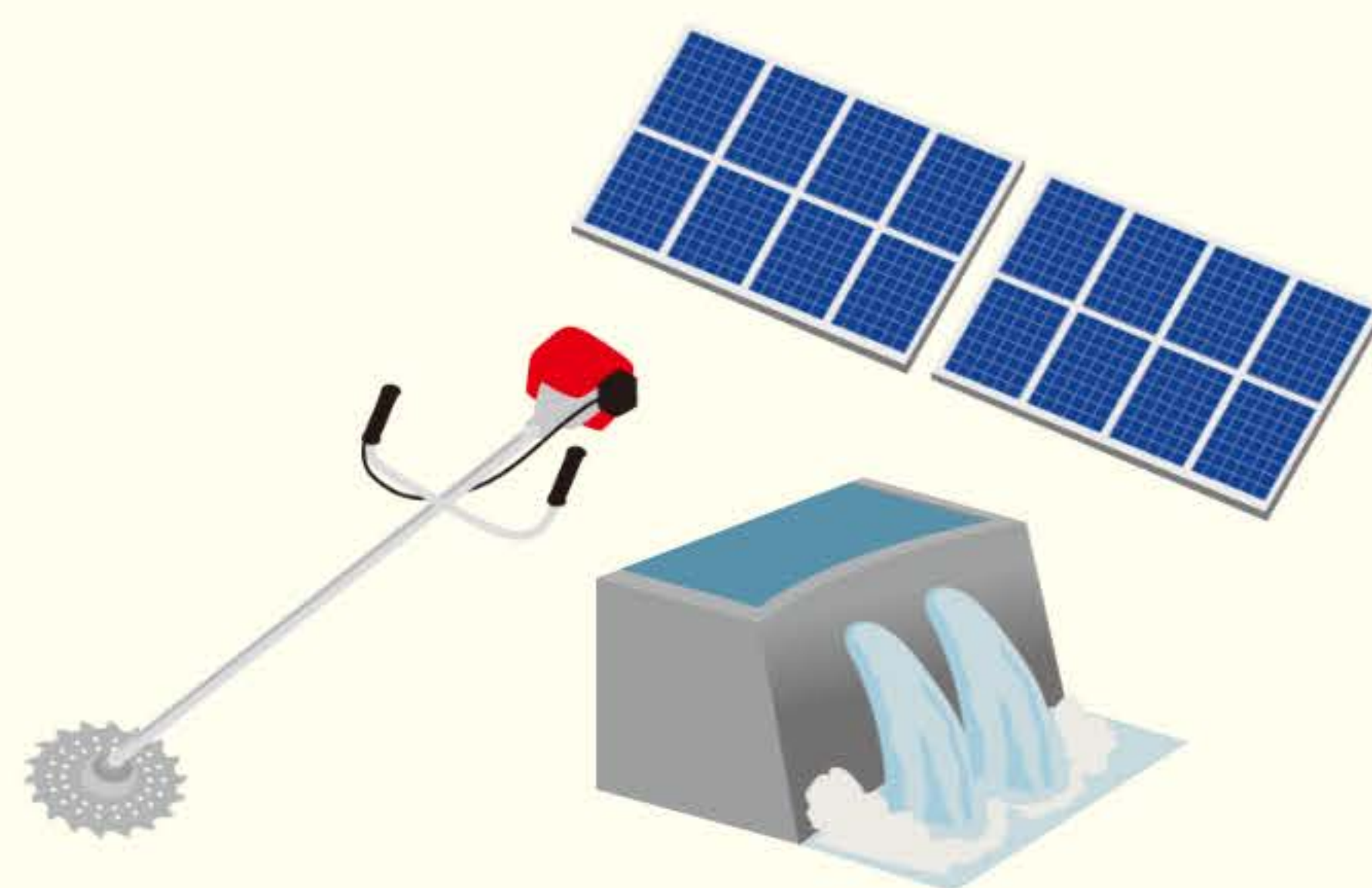
土地改良区は、農業に欠かせない水利施設の維持管理や農地の整備を行う団体です。整備を通して農業の生産性を高めることで、農業の発展に役立っています。土地改良区は、これからも農業を力強く支えます。

地域のインフラを支える、

土地改良区



土地改良区は、水を通して地域のインフラとなっており、その土地の特色を活かした取り組みを進めています。山形県と滋賀県の土地改良区で話を聞きました。



地域に根付く

山形県の土地改良区

山形県の内陸部に位置する寒河江川（さがえがわ）土地改良区は、さくらんぼ栽培をはじめとする農業が盛んな地域です。事業を通してさまざまな角度から住民の暮らしを支えています。



寒河江川土地改良区 松田和之さん

山形県寒河江市生まれ。2012年から寒河江川土地改良区で勤務。総務課長兼会計主任。防災士。2級土木施工管理技士。



▶▶ 水利施設の管理

区域にある頭首工や堰、用水路などを定期的に点検し、必要な修繕、補修を行います。寒河江川にある2つの頭首工は農業用水の取水に役立っています。また、水生生物に配慮し、魚等の通り道として魚道を設置するなど環境にも配慮した頭首工です。



▶▶ 用水路の維持・管理

用水路やため池の草刈りは外部に委託せずラジコン草刈機などを導入して職員が行うほか、二の堰と高松堰では、地元団体や住民がグラウンドワーク二の堰、グラウンドワーク高松堰を組織し、草刈りや清掃活動を行っています。





▶▶ 水管理にICTを活用

2020年夏の豪雨時に区域の農地に浸水被害が発生したことから、スマート水管理システムを導入。スマートフォンで水量をモニタリングし水門のゲートや給水栓の操作が可能に。労力の削減、豪雨時の見回り事故の防止に役立っています。



土地改良区が果たす多面的な役割

土地改良区はどのような役割を果たしているのでしょうか。農業の生産性を高める本来の目的のほかに景観保全など、寒河江川土地改良区が地域で担っている多面的な役割の一部を紹介します。



01

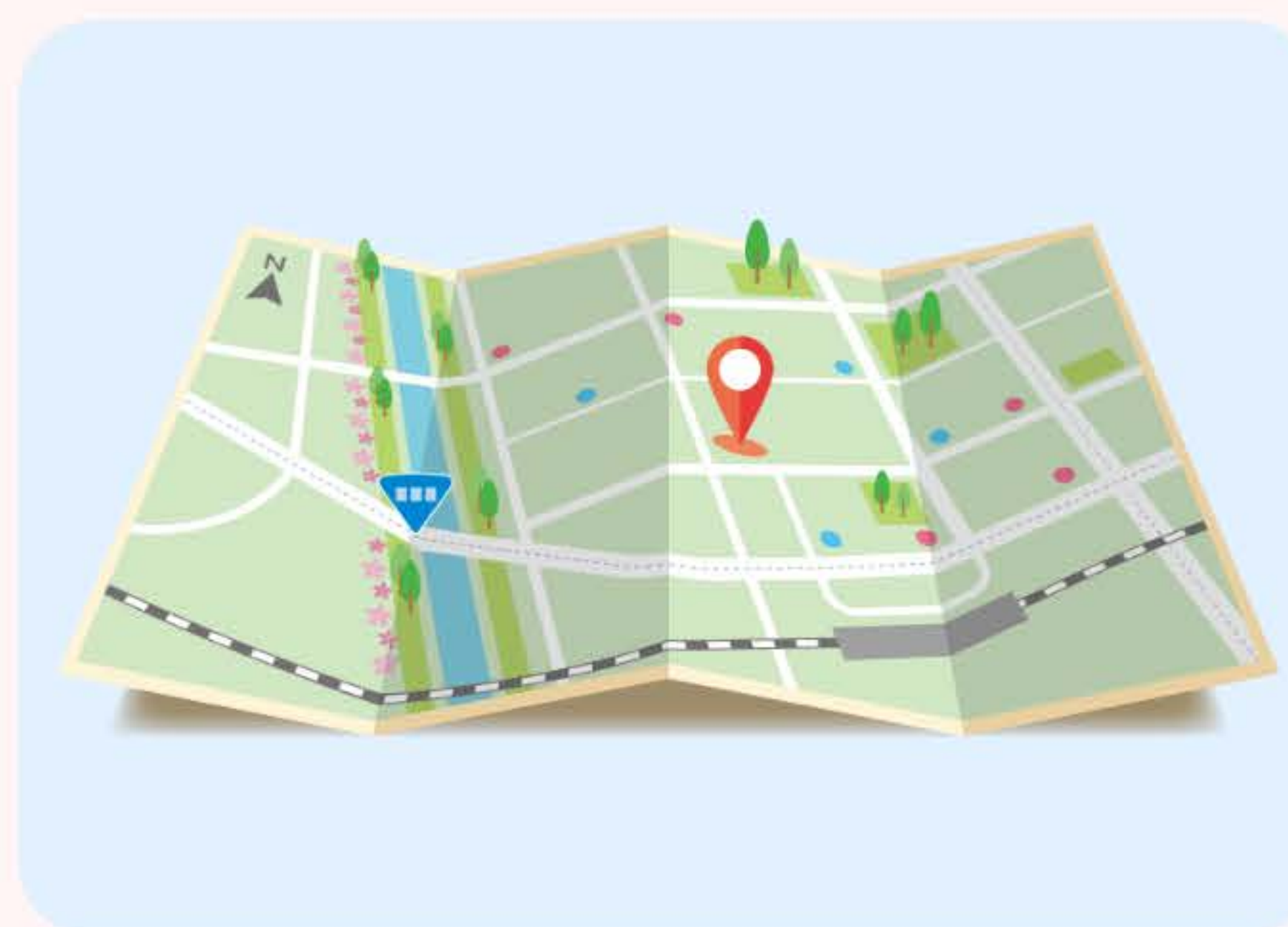
水害を防ぐ

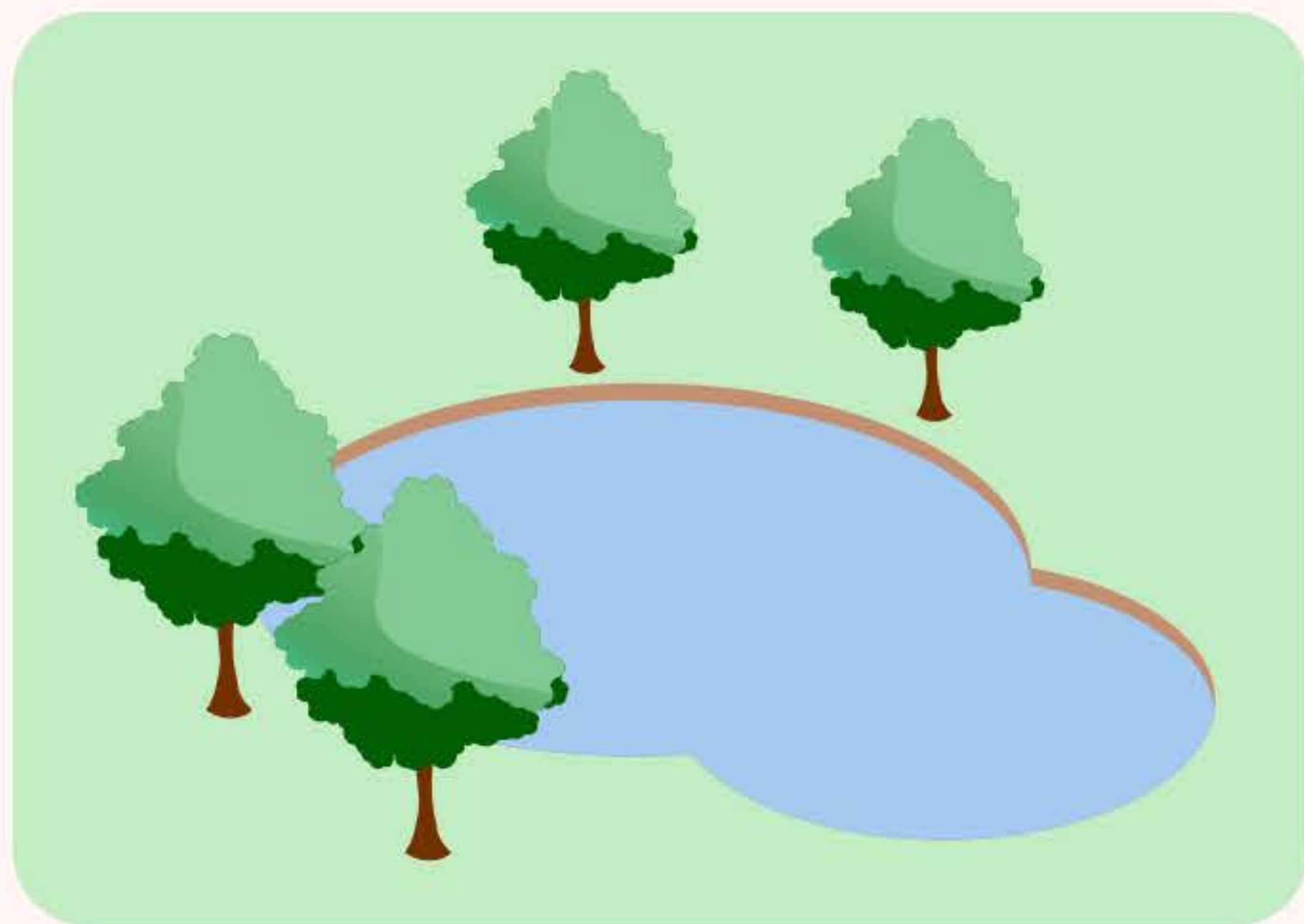
山に囲まれた寒河江川地区では、大雨時には山地からの排水が住宅地まで及ぶこともあり、ダムや用水路などの施設によって水位を管理しています。

02

地域計画

農地の所有者や耕作者に実施したアンケートをもとに、今後の農業生産の意向を示す地図を作成。農地を次世代へ継承するための地域計画の策定に参画しています。





憩いの場の創出

農業用水路を利用して整備した二の堰親水公園には、東屋（あずまや）や水車、遊歩道、鯉が泳ぐ池があり、地域住民の憩いの場となっています。



景観保全

二の堰がある用水路沿いに整備した、全長3,070メートルの遊歩道や地元の特産品ブルーベリーを植えた安全柵などが、地域の景観保全にも役立っています。



＼ 地域で盛り上がる ／

寒河江川土地改良区の イベント

水利施設では、地域住民が気軽に参加できるイベントを開催しています。毎年たくさんの人で賑わい、参加者たちの温かいコミュニケーションの場となっています。

4月
中旬



さくらまつり

二の堰で満開の桜のもと開催されます。水路でのカヌー体験やスタンプラリーなどを実施。玉こんにゃくや団子が振る舞われ毎年1,000人以上が訪れます。夜桜のライトアップは神秘的な光景が好評です。

7月
海の日



せせらぎフェスティバル
in高松堰

地域住民で組織され高松堰幹線水路の清掃活動を行うグラウンドワーク高松堰が主体となって開催。用水路で行うチューブスライダーでの川下りやニジマスのかみ取りは子どもたちに大人気です。

10月



河北水・土・里 POWERフェスティバル

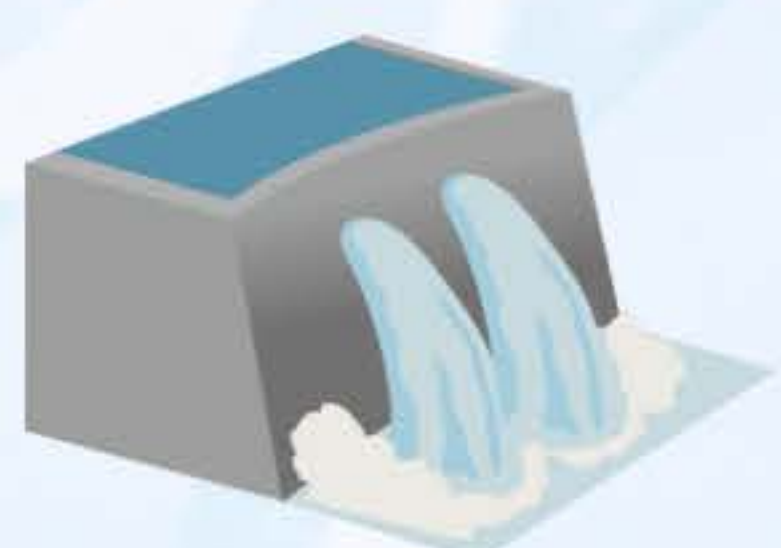
谷地堰の円筒分土工親水空間で開催されるイベントです。地域住民に農業農村整備事業を説明するパネルの展示の他、スマート農業や防災に関するクイズラリー、ティラノサウルスレースを実施しています。

10月



芋煮会

山形県名物の芋煮会を地元のガールスカウトやロータリークラブのメンバーとともに二の堰親水公園で開催しています。里芋はガールスカウトの子どもたちが種付けをして育てたものを収穫して使います。



河川や湖の水を 農地に届ける工夫



琵琶湖の東側に位置する滋賀県の日野川流域土地改良区では、多様な水源を活用しています。日野川は流量が少ないため、下流にある琵琶湖からポンプで取水したり、ため池を活用したりと複雑な用水システムのコントロールが必要です。地域での取り組みを紹介します。



高度な配水管理

河川や琵琶湖などの水や雨水などを利用するため、区域には1つのダム、9つの頭首工、48の揚水機場、112のため池と多くの水利施設があります。中央管理所では高度な配水管理を実施し、これらを効率よく運用しています。



節水・節電を実現

揚水機など電力が必要な施設が多く電気代の高騰が懸念されています。施設に設置したソーラーパネルの活用のほか、農作業に支障のない期間に夜間の流量を抑制するなど節水・節電に取り組み、成果を上げています。



水利施設の多面的機能

水利施設は多面的機能をもっています。蔵王ダムでは、滋賀県の防災航空隊が防災ヘリコプターによる水難救助訓練を実施。農業用水の貯水や大雨時の水害防止だけでなく、地域の活動にも貢献しています。



次世代の担い手を育成

地域の小学校では職員が出前授業を実施。河川や琵琶湖から田畑までの水の流れや水利施設の紹介などを通して関心を高めています。また地域住民による蔵王ダムの清掃活動などの地域イベントにも力を注いでいます。





今週のまとめ

土地改良区は、地域の特徴に合わせて事業を進めてきました。災害の防

止やイベントの開催など農業従事者以外の暮らしにも役立っています。

地域の土地改良区は、私たちにとってとても身近な存在です。

水が伝える、

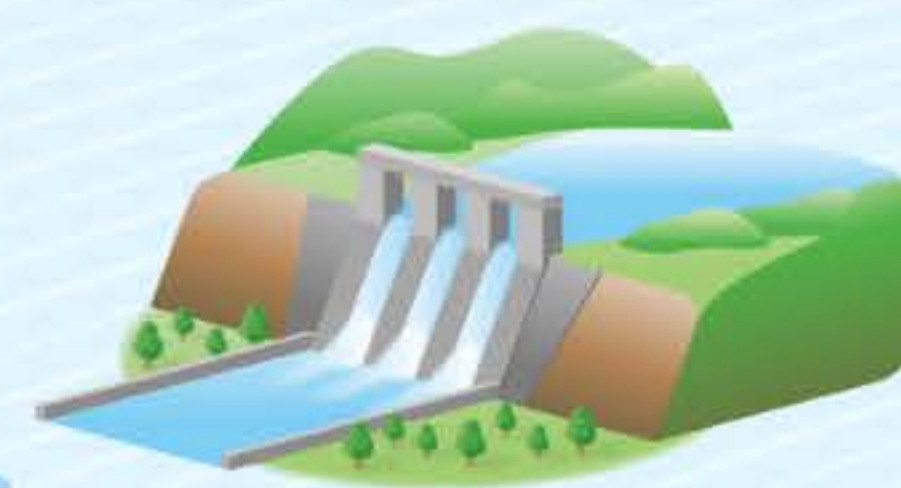
豊かな農村空間



農業に欠かせない水を活かすことは、農村の発展につながります。豊かな穀倉地帯として知られる新潟県と愛知県、風土が異なる2つの土地改良区を紹介します。



／ 地域と共に歩む、／ 新潟県の土地改良区



3つの川に囲まれ、海拔0m地帯が多い新潟市亀田郷（かめだごう）は、土地改良事業を通して県内有数の豊かな穀倉地帯へと変貌しました。近年は自然や地域の生活環境に配慮した取り組みを進めています。



亀田郷土地改良区 総務課庶務係専門員 荒木剛さん

新潟県新潟市生まれ。1991年7月から亀田郷土地改良区に勤務し、農村でのパソコン通信ネットワークの構築やパソコン教室などのIT化に取り組む。現在も組合員や地元住民との橋渡しとなるよう、広報活動や視察対応を担当。

用水管理



海拔0メートル地帯のため河川から直接ではなく、ポンプを使って田んぼに水を送り届けるために、揚水機場や用水路の整備、管理、状況に応じた補修を行っています。親松排水機場内の操作室では区域の水利施設を一元的に監視、制御しています。

排水管理



地域の多くを海拔0メートル地帯が占めていることから、排水管理がとても重要です。浸水被害を防止するため、田んぼで使った水は4つの排水機場から河川に戻します。また、亀田郷全体の排水が集まる鳥屋野潟の水位を24時間監視しています。

防 災



急激な都市化が進み田んぼは70年前と比べて面積が半分以下になり、宅地が増えています。そのため農業用の排水施設が地域の防災的な役割も果たしています。2022年8月の豪雨でも、排水機能が機能したため大きな被害が出ませんでした。

環境保全



9月から翌年4月中旬までの非かんがい期には河川から農業用水の取水を停止していましたが、2007年から環境用水として水を循環するようになり、水質の浄化や景観の保全、絶滅危惧種の鳥類や魚類の保護に役立っています。

亀田郷の自然条件と 土地改良区の役割

阿賀野川、信濃川、小阿賀野川という、3つの河川に囲まれた亀田郷の土地改良区では、豊かな恵みを有効活用して、米栽培が活発に行われています。



米づくりにかかわる 水の流れ

河川から 取水

阿賀野川、信濃川、
小阿賀野川から取水
します。

揚水機場

ポンプを使って川から
水を汲み上げます。

用水路

揚水機場で汲み
上げた水を田ん
ぼに送ります。

排水路

田で使用した水を排
水機場に流します。

排水機場

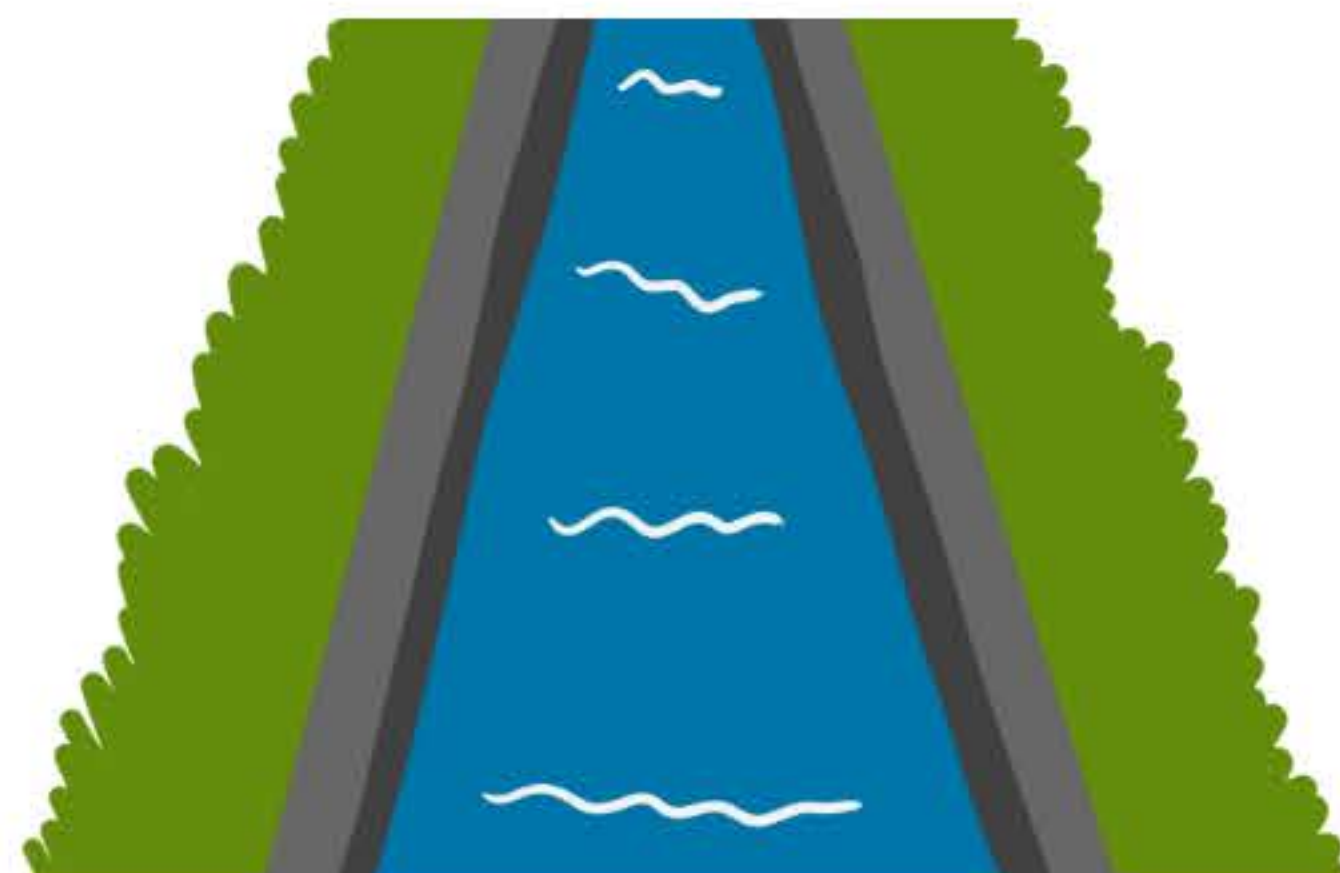
ポンプを使って水を
再び川に戻します。

土地改良区の仕事

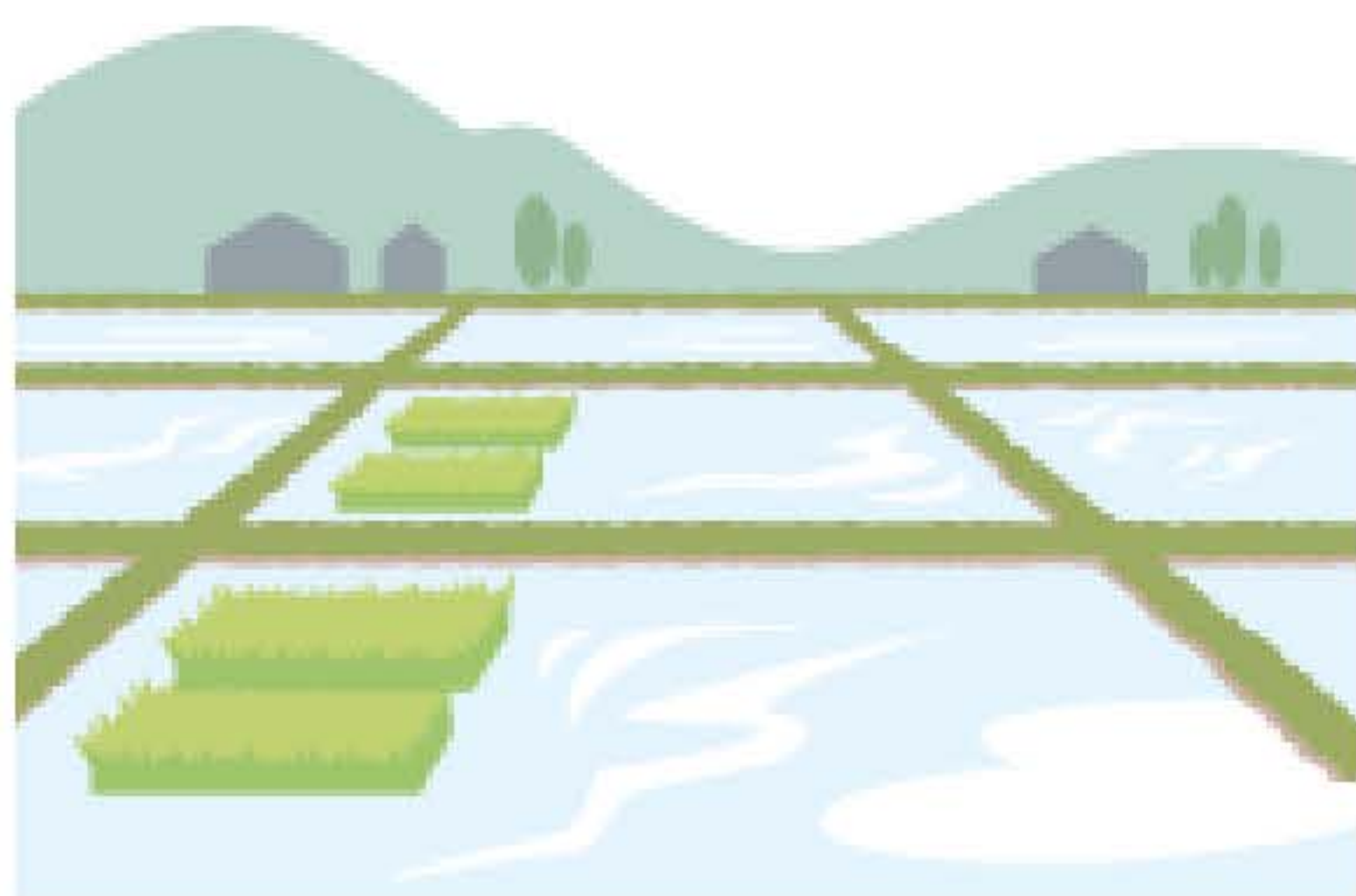
揚水機場・排水機場の
造成・運転・管理



用水路・排水路の
造成・管理



区画整備



農道整備



米づくりに必要な水をまんべんなく田んぼに供給するほか、
農作業を効率よく進めるための整備を続けてきた亀田郷地
区。かつては泥田だった一帯が、農作業米作りに適した環境
へと生まれ変わったのです。



写真で見る、亀田郷の四季

亀田町が新潟市と合併した2005年に、地域の豊かな自然を記録しておこうと「亀田郷の四季」をテーマにした写真コンテストを開催。入賞作品を紹介します。



のどかな田園

空の澄んだ青さと水田で元気に育つ稲の緑、その脇の元気な白い犬との対比が美しい。



春光の田園

雪が残る田園風景。遠くに見えるのはスポーツ施設デンカビッグスワンスタジアムです。



丸山の桜並木

新潟市内の用水路沿いにある桜並木。夜はライトアップされ幻想的な光景が広がります。



冬の竹林

雪が積もった市内の竹林は、墨絵のように静かな光景です。春になると筍が顔を出します。



歓び

秋の稲刈り。体験交流会の参加者が手で稲を刈っています。豊作の歓びが表れています。



鳥屋野潟の夜明け

近くに排水機場がある鳥屋野潟。遠くにそびえる越後山脈から陽が差し込んでいます。

明治の時代から 地域資産を守る

愛知県中央部の碧海台地は近くに大きな川がなく、米の栽培が難しい地域でしたが、矢作川から水を引く明治用水が完成したことで大穀倉地帯へと変貌しました。明治用水土地改良区は、この地域でたくさんの取り組みを進めています。

水源地の森林を守る

「水を使う者は自ら水をつくれ」という初代理事長の教えをもとに矢作川上流にある5カ所の水源かん養林を所有し、森林の維持管理を行っています。また、これに必要な資金を確保するため水源かん養林基金を設立し、協力金を募っています。





川の水質保全に取り組む

高度経済成長期の工業化、都市化による矢作川の深刻な水質汚染により立ち上げられた、矢作川沿岸水質保全対策協議会に参画。土地改良区としては全国で初めて水質試験室を設けました。現在もデータを収集、監視するなど水質保全に取り組んでいます。

用水路の地中化

現在の明治用水は、本流以外はすべて地中のパイプラインを通っています。そのため田んぼに送る水量を管理しやすく、節水や水質汚濁の防止が可能になりました。水路が地中化された場所は遊歩道やサイクリングロードとして活用されています。



次世代に農業の大切さを伝える

水のかんきょう学習館で行う校外学習「水のかんきょう楽校」や実習ほ場での田植えや稲刈り、生き物調査などを体験できる「水の駅」を企画、運営。子ども達に農業の大切さや農地に水を運ぶ仕組みなどを伝えています。



今週のまとめ

異なる理由で水に悩まされていた2つの地域は、それぞれ地域に合った方法で整備することで豊かな穀倉地帯へと発展しました。土地改良区は事業を通して地域の防災や景観づくり、子ども達への環境教育にも役立っています。

土地改良区から、

コミュニティが生まれる



地域に根づく土地改良区は、コミュニティづくりでも大きく貢献しています。たくさんのコミュニティを活性化させている、岩手県と熊本県の土地改良区を紹介します。



地域と
共に歩む、

岩手県の 土地改良区

岩手県の胆沢（いさわ）平野土地改良区は農村活性化やアドプト制度などを通して、多様なコミュニティを形成。イベントなどを通して組合員以外の人との交流も行っています。



胆沢平野土地改良区 水利整備課用排水係主事 田川幸汰さん

岩手県盛岡市生まれ。2024年から胆沢平野土地改良区に勤務。水利整備課に所属し、農業用水の安定供給を実施するため、施設の点検やゲート操作などを行う。

水利施設の魅力を伝える、 水土里の皆廊（みどりのかいろう）

土地改良区が果たす役割を啓発するため円筒分水工など7つの農業水利施設や歴史的水利施設を巡る、水土里の皆廊というイベントを実施。各施設に用意したステッカーを集めるとプレゼントに応募できる企画です。休日に遠方から車で訪れる人も増えています。



古民家カフェで 地域を活性化



地域活性化対策事業として、約150年前に建てられた古民家を高校生ボランティアなど、のべ308名で清掃し、1日限定でカフェを開きました。若手農家が営む焼き芋販売店やキッチンカーが出店。若者を巻き込んだ、農業の担い手確保につなげるイベントです。

活躍する女性理事たち

胆沢土地改良区では、全国の先陣を切るという思いで女性理事の登用を進め、理事13人のうち3人が女性となっています。女性理事たちは地域とのつながりが深く、行事でもコミュニケーションがスムーズに行われています。



住民が水利施設を守る アドプト制度



用水路などの水利施設を養子（アドプト）とみなして、地域の住民たちに維持管理に関わってもらうための制度に20年前から取り組み始めました。ホタルが生息する前沢水路では、草刈りなどの清掃活動を通して参加者たちの間で新たなコミュニティが生まれています。

農業法人の 担い手確保を支援



管内農業法人の担い手確保を目的に、岩手県立農業大学校の学生を招待し、胆沢の農業法人見学会を行いました。水不足の心配がない大区画水田、スマート農業に対応した大型機械、法人の経営内容を紹介し、初期投資なしで就農できる農業環境の良さを伝えました。





農業経営セミナー



農業法人の役員を対象に、経営力向上を目指したセミナーを開催。県内外の若い担い手を確保している農業法人の経営者を招き、先進的な事例を紹介しています。参加者は自分達の法人にも活用できる取り組みはないか熱心に聞き入り、質疑応答も活発に行われています。

写真が伝える

胆沢平野土地改良区



胆沢平野のシンボルとも言える円筒分水工は、胆沢平野の農業用水を公平に配分するためにできた分水施設です。



2014年に完成した胆沢ダムにより、農業用水の安定供給が可能になりました。近くの奥州湖展望台からはダムが一望できます。





区内にある13の頭首工のうちの1つ茂井羅頭首工。4月下旬から5月上旬の代掻き期にのみ農業用水を取水しています。



田んぼの間に民家がぽつりぽつりと離れて点在する形態を散居（さんきょ）といいます。胆沢平野は日本の三大散居集落のうちのひとつです。



ほ場整備事業を契機に誕生した施設では、旬の朝採り野菜も購入できます。



胆沢平野土地改良区では農作業の効率化を図るため、農地の形状を整え用水路を整備するほ場整備を進めています。



（コミュニティの力で） 災害から住民を守る



百太郎溝土地改良区
事務局長
市田秀樹さん

熊本県では令和2年の豪雨被害をきっかけに田んぼダムを推進。百太郎溝（ひゃくたろうみぞ）土地改良区では防災活動への住民の理解や協力を進めるため、コミュニティを活用しています。

熊本県生まれ。2001年から百太郎溝土地改良区に勤務し、2009年からは事務局長として土地改良施設の維持管理業務を行う。

百太郎溝は、鎌倉時代に開削が始まったとされるかんがい用水路で、地域住民が総出で手掘りしたという、まさにコミュニティの力で完成したもの。以来何百年もの間、地域の田畑を潤してきました。旧樋門は現在、熊本県球磨郡の百太郎公園に移築復元されています。

百太郎溝取入口旧樋門



田んぼの学校



米づくりや水路などについて学ぶ田んぼの学校では、県立南陵高校の生徒たちが専用の堰板を使って、田んぼに降った雨を一時的に溜めておく田んぼダムの仕組みを子ども達に説明。その後、実際の田んぼダムを見学して理解を深めました。

災害時の対応をより連携して行えるよう、多面的機能支払交付金を活用した復旧体制について話し合う場を設けています。県関係者や関係団体、近隣の農業従事者、土木関係者が参加して水利施設の管理方法などを話し合い、情報を共有しています。



地域の枠を越えたコミュニティの形成を目的として、6つの村の担当者や農業従事者などが田んぼダムの取り組みの推進や地域保全の課題、事務処理などについて活発な意見交換を実施。課題解決に向けたルールづくりなどを行っています。



今週のまとめ

土地改良区の事業を通してたくさんのコミュニティが生まれています。

地域とのつながりが深まると、土地への愛着が育ちます。土地改良区が

開催するイベントにもぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

土地改良区 に、 行ってみよう！



全国の土地改良区には水利施設をはじめとした多くの見どころがあり、誰でも参加できるイベントや学びの場を提供しています。お気に入りの土地改良区を見つけてみませんか？



土地改良区、3つの楽しみ方

土地改良区には、貴重な観光スポットや地域の祭り、誰もが学べる講座やイベントがたくさんあります。自然や文化に触れる楽しい時間が過ごせます。

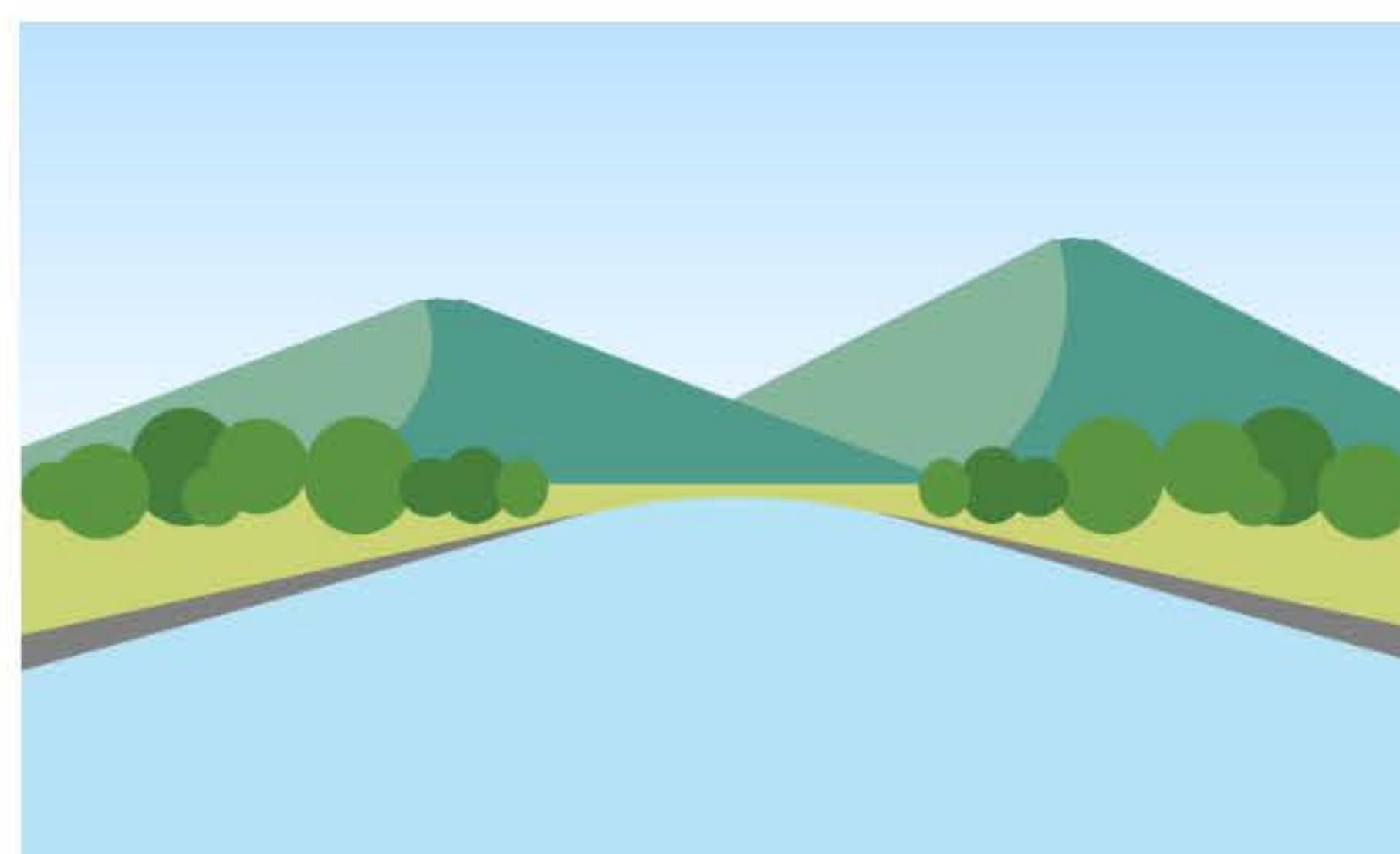
01

観光

SIGHTSEEING

世界かんがい施設遺産

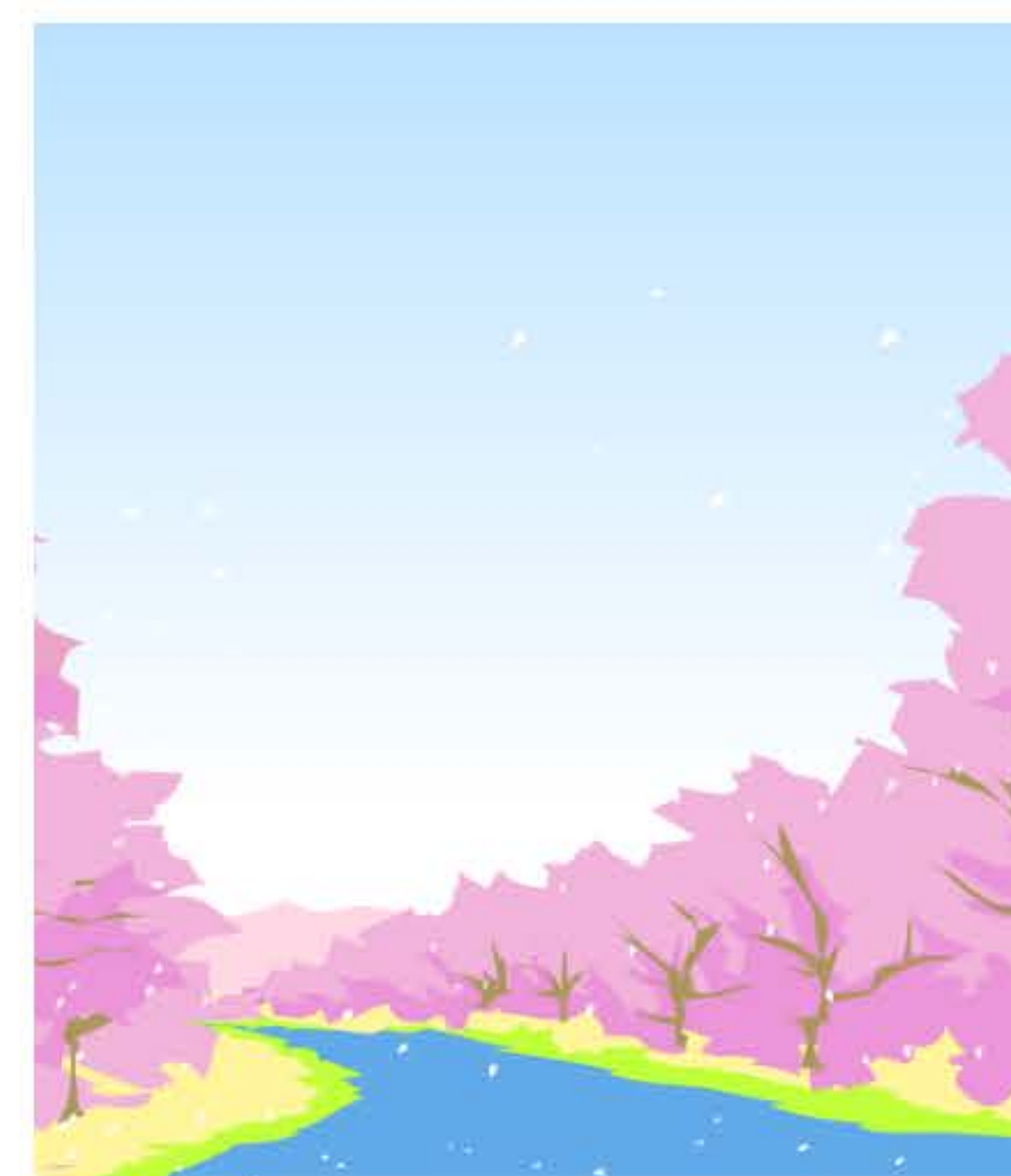
歴史的、技術的、社会的価値がある施設として国際かんがい排水委員会（ICID）に、世界かんがい施設遺産に認定された施設が、福島県の安積疏水や香川県の満濃池など全国に54施設あります（2024年10月現在）。



田んぼアート

田んぼをキャンバスに見立てて、原画をもとに色の異なる稲を測量しながら植えると、稲が実る頃に田んぼアートが完成します。作業への参加者を住民から募集する地区もたくさんあります。

花見



映えスポット

SNSで話題になるような映えスポットも数多く存在します。栃木県那須烏山市にある猿久保田んぼ公園のひまわり畑、大阪府岸和田市の神於山土地改良区内の休耕中の農地を使ったコスモス畑などが有名です。



施設の周辺や用水路沿いには桜の名所として知られる場所が多くあります。愛知県一宮市の大江用水、新潟県阿賀野市の新江用水、埼玉県草加市の葛西用水など毎年多くの花見客でにぎわっています。



バスツアー

各地の土地改良区では、水源地である川や森林での散策をはじめ、畑での収穫体験、土地改良施設の見学などができるバスツアーを実施しています。凧揚げやクイズ大会など子どもが楽しめるイベントを行うバスツアーもあります。

02

祭り

FESTIVAL

桜祭り

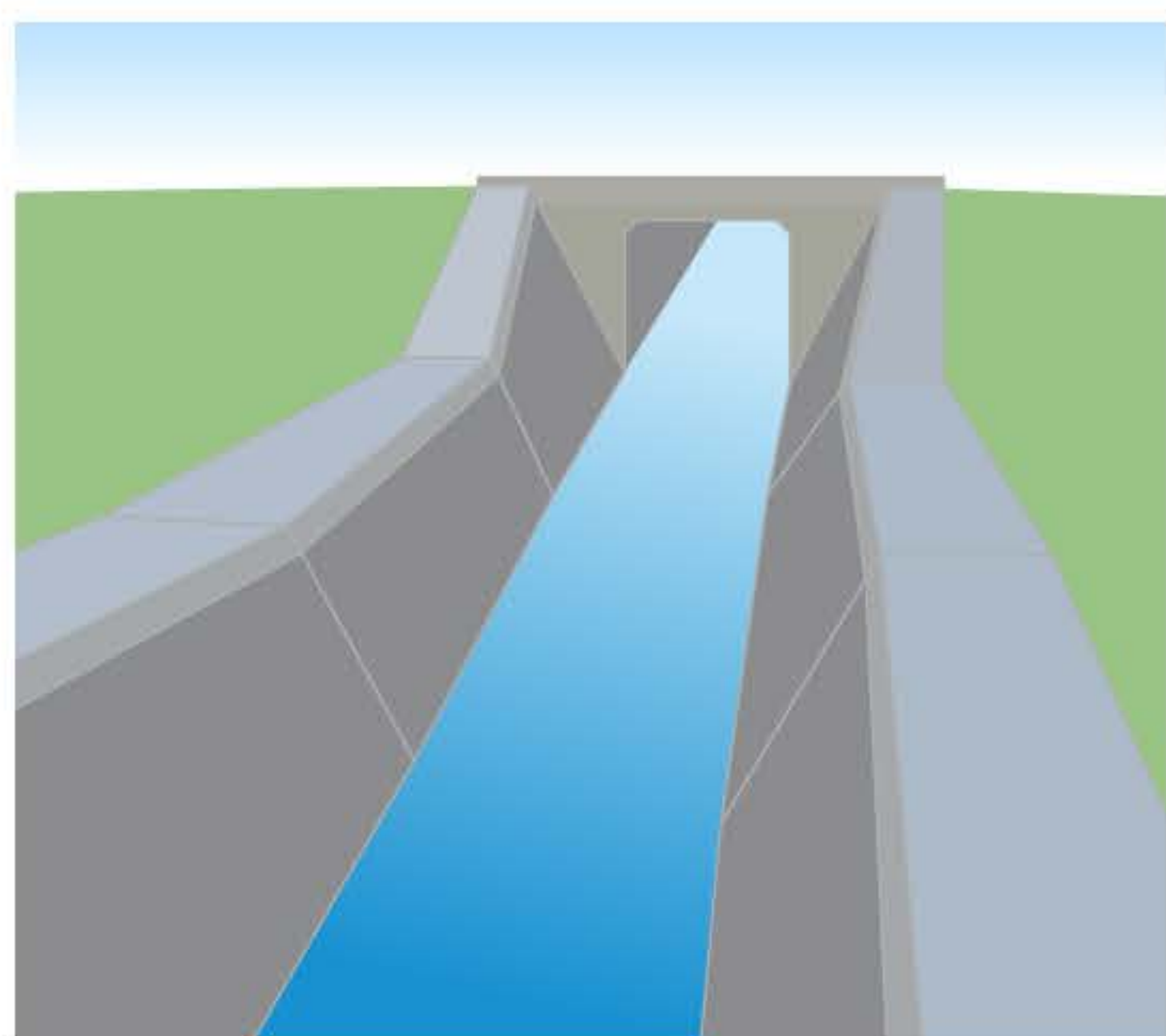
静岡市の西山寺阿僧土地改良区で、約450本の河津桜が満開になる2月中旬に行われる由比八千代桜まつりなど、各地で桜祭りを開催しています。



収穫祭



秋の収穫の時期には、収穫祭が行われます。芋ほりや餅つきなどのイベント、豚汁や焼き芋を振る舞うところもあります。



通水祈願祭

農業用水の通水開始前の4月頃には通水の安全と豊穡を願う祈願祭を行います。神職らの立ち会いのもと厳かに執り行われる祭りです。

03

体験学習

EXPERIENCE
LEARNING

用水路の 生き物調べ



水が少ない時期の用水路で子ども達を中心に、魚やカエルなどを捕獲して、地域に生息する生き物調査を行なっています。



農泊

農村などに宿泊して豊かな地域資源を活用した郷土料理や農作業などを楽しむ旅行のことです。その時期のその土地ならではの体験ができます。

ウォークラリー

用水路や堰などの土地改良施設を巡り、景観を楽しみながら地域の自然や歴史、文化に触れられるウォークラリーを実施しています。



田んぼの学校

田んぼや用水路、ため池などを遊びと学びの場として農業への理解を深める体験イベントです。田植えや稲刈り、自然観察などの体験を通して学びます。

各地で配布中！

水の恵みカード

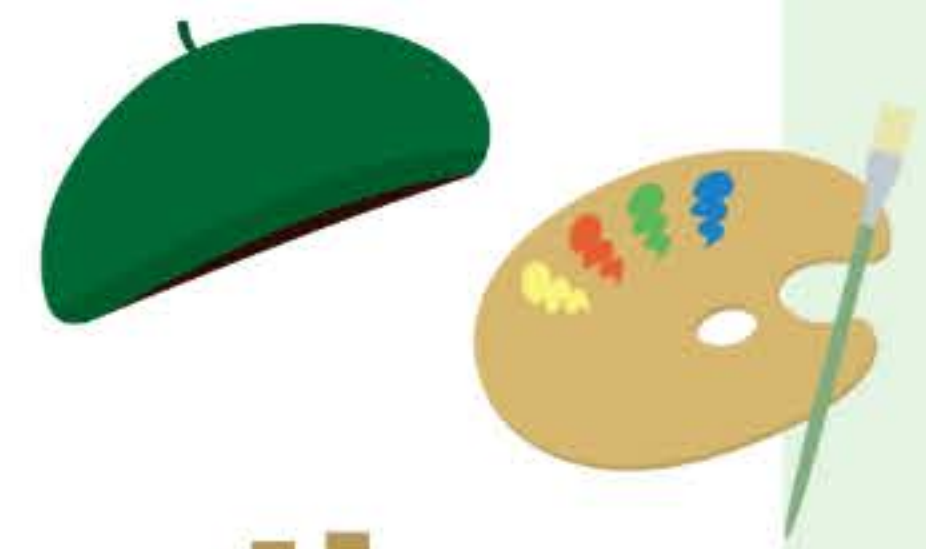


私たちが普段、口にしている農産物の栽培には、ダムやポンプ場などから送られてくる水が不可欠です。地域の農産物とそれに関連する農業水利施設をわかりやすく紹介する水の恵みカードを各地の直売所や農業水利施設、収穫祭等で配布しています。予定枚数の配布を終了している場合もありますので、事前にご確認ください。

https://www.maff.go.jp/j/nousin/mizu/kurasi_agwater/mizunomegumi/



《 全国規模で開催される 》



土地改良 写真・絵画コンクール

写真や絵画を通してより多くの人に土地改良事業の魅力を伝えるため、全国土地改良事業団体連合会では、写真コンテストと絵画展を開催しています。



水が伝える豊かな農村空間 ～疏水・ため池のある風景～ 写真コンテスト

田んぼや畑に水を送る疏水（農業用水）やため池は、本来の役割を果たしつつ日本人の原風景ともいえるべき美しい風景を創り出しています。その風景を収めた写真を全国から募るコンテストです。



農林水産省農村振興局長賞 タイトル：楔



未来へつなごう！ ふるさとの水土里（みどり） 子ども絵画展

子ども達に田んぼや畑、ため池、水路のある風景や水路を守っている人たちの姿を通して、水の循環や環境保全への理解をうながすことを目的として開催しています。対象は小学生以下の子ども達です。



農林水産大臣賞 タイトル：おいしいお米ができますように



今週のまとめ

世界かんがい施設遺産や田んぼアート、ウォークラリーなど魅力的な観光スポットや自然と親しむ体験ができるイベントを紹介しました。お住まいの地域で、あるいは旅先で足を延ばしてみてもいいかもしれません。